

友好都市・台湾二水郷の中学生が初来町

津別中学校の生徒と交流と友情を深める

津別町と平成24年10月に友好都市提携を結んでいる二水郷の中学生と教員の計10人が、両町中学生の相互交流事業として、7月1日から3泊4日の日程で津別町に滞在し、津別中学校で授業体験を行うなど津別中の生徒とも交流と親睦を深めました。一行は、二水国民中学校の1年生女子5人と2年生男子1人、引率者は、陳静宜校長他教諭3人。

到着日の1日は、つべつ夏まつりの花火大会を見学、翌2日は、乗馬や鳥笛作りを体験、川のぼり大会出場者に声援を送るなど祭を満喫していました。



▲川のぼり大会見学 (右側手前は通訳の北見工大・邱助教ご夫妻)

3日は、早朝の津別峠の雲海観光の後、津別中学校での歓迎セレモニーに

臨みました。体育館で全校生徒が出席する中、吹奏楽部が演奏する「世界にひとつだけの花」の曲に合わせて一行が入場。

佐藤町長は、「二水国民中学校 陳静宜校長先生ほか中学生の皆さん、津別町によろこそいらつしゃいました。皆さんの訪問を心から歓迎します。津別町の夏まつりは楽しかったでしょうか。まだまだたくさん楽しんでいて欲しいと思います」と中国語で挨拶。

引き続き日本語で、「二水郷との交流のきっかけは、1992年夏、北海道国際交流センターが主催するホームステイプログラムに参加した台湾の外交官が、私の家に滞在したことに始まります。その後も、二人の外交官が我が家にホームステイしています。また、津別町の国際交流組織が、1998年に10周年を迎え、その間に受け入れた外国人留学生65名のうち、3割が台湾

の留学生だったことから、彼らと台湾で再会する記念ツアーを行いました。時を経て2007年に、私の家にホームステイした外交官が日本勤務となり、そこから紹介された二水郷との相互訪問が始まりました。これを機に、翌2008年に、北海道で初めて日台親善協会が津別町で設立され、2012年には、北海道で初の台湾との友好都市締結が、二水郷と津別町との間で調印されました。津別町はいま、急速に少子高齢化が進んでいます。未来を見据え、コンパクトで住みよい町づくり



▲ランプの宿 森つべつにて記念写真

を進めているところです。そうした津別町の一端を滞在中に、是非見て欲しいと思います。今回の訪問交流は、きつと短く感じるとは思いますが、同じ中学生同士、視野を広め、友情を深め合って欲しいと思います。次の時代を担う君たちの成長を心から期待します」と歓迎の挨拶。

陳静宜校長は、「お誘いいただき光栄です。このようなチャンスを与えていただきありがとうございます。津別に到着した1日は、つべつ夏まつりの花火を楽しみました。昨日の夜は、森の中のホテルに宿泊し、早朝に津別峠で雲海を見られました。津別の豊富な資源や友情を感じています。さらに国際交流を深めていきたい」と挨拶されました。



▲訪問生徒による歌の披露

続いて、津別中の生徒会を代表し、

手賀桃香生徒会長(3年)は、「ようこそ津別中学校へ。たくさん交流して思い出を作りましょう」と歓迎の言葉を述べました。二水郷の中学生は、「日本の文化に触れるのが楽しみです」「皆さんと友達になりたいと思います」「アニメとゲーム、そして日本が大好きです」などの抱負の言葉を添えて一人ずつ日本語での自己紹介が行われました。

津別中の垣内孝仁校長は、「文化、言葉が違う同世代が接することは、貴重な体験です。両校の生徒から将来日本と台湾との架け橋になる人材が育つてくれるとうれしいです」と挨拶されました。

二水郷の生徒は、歓迎のお礼に台湾の名曲を楽器と歌で披露し、会場から



▲書写体験で書き上げた「星あかり」

大きな拍手が沸き起こりました。

その後、3日の午前中は、3年生のクラスにおいて二水郷の学校紹介、1年生のクラスにおいて書写の授業体験、4日の午前中は、2年生のクラスにおいて英語の授業見学、3年生の体育の授業ではソフトボールを行い、両日とも給食を一緒に食べ交流が深められました。

3日の午後からは、パークゴルフ協会の皆様のご協力を頂き、4名3組に分かれパークゴルフに挑戦。空振りをする度に溜息の一方で笑いが湧き上がり、9ホールを1時間20分掛けて生まれて初めてのパークゴルフ体験を満喫していました。その後、あいおい道前駅、木材工芸館を見学。4日の給食前



▲給食をともにした2日間

に、津別市街を見渡せる開基百年記念塔へ上り鐘を鳴らし、緑広がる畑と野山の風景に見入っていました。



▲パークゴルフ協会の皆様と記念写真

給食の後、お別れセレモニーが津別中学校のホールで行われ、二水郷の中学生から、「短い2日間でしたが、授業を見学させていただき、皆さんの友達になりたいという気持ちが伝わってきました」津別中の迫田夢人さん(3年)は、「給食を一緒に食べ、思い出に残る2日間でした。また津別に来てくださ」とお別れの言葉が交わされました。玄関前では、津別中の全校生徒が台湾の小旗や「謝謝」「再会」「慢走」と書いた横幕を持って見送り、二水郷の一行はタッチをしながらバスに乗り込み、津別中の生徒たちは、二水郷の友



▲前列中央の女性が陳校長



▲再会を願い笑顔で見送る津中の生徒

人が乗るバスが見えなくなるまで手を振っていました。